

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 607 号	氏名	長山 拓希
学位審査委員	主査	工藤 崇	
	副査	江石 清行	
	副査	前村 浩二	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究は、通常は造影 CT にて評価される大動脈瘤へのステントグラフト留置術後の Endoleak(ステント外への血液流出)を単純 CT によって予測・評価しようとするもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価 客観的な評価基準として、単純 CT によって測定された大動脈最大短径の測定を用いている。これを経時的なサイズの変化によって分類し、更に種々の統計学的解析法で解析したもので、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、単純 CT によって測定された大動脈最大短径が 1mm 以上の縮小傾向にある症例では高い中率で Endoleak が生じていないことを明らかにした。またこの測定法が、測定者間の誤差が小さく客観的な評価法としての信頼性が高いことも明らかとなった。腎機能への影響の多い造影 CT を用いることなく、単純 CT のみで重大な Endoleak の予測を可能としており、臨床的な有用性がきわめて大きい。今後の発展が期待される。</p>			
<p>以上のように本論文は血管画像診断研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			